国語科学習指導案

実施日　　平成23 年6月29日
実施クラス　　2 年 5 組
授　業　者　　水 野　直 子

1 指導単元

単元名　思いを朗読で伝える。
教材名　「いしぶみ」（広島テレビ放送編　ポプラ社文庫）

2 単元設定の理由

本校では年に６冊の課題図書を決め、国語の授業の中でこれらの本をどう扱うかを工夫している。今回は「いしぶみ」を読んで、自分の考えや感想をもち、朗読をとおして伝え合う言語活動を行う。また、グループでの学び合いの成果が、発表の工夫や、朗読練習で活かせるような指導を行いたい。このような活動を重ねることを通して作品の価値を評価するような能力を育成できるのではないかと考えた。

3 単元の指導目標（新学習指導要領　第２学年「Ｃ読むこと　エ　自分の考えの形成」）

・作品を読んで自分の考えや感想をもつ。
・印象的な場面を引用しながら、作品からのメッセージと自分の思いを伝え合う。

※「言語活動例」との関連
「第２学年Ｃア詩歌や物語などを読み、内容や表現について感想を交流すること」

4 単元の指導計画（５時間扱い）

	主な学習活動	評価規準
第１時	印象に残った場面に付箋紙を貼りながらか「いしぶみ」を読む。	印象の残った場面をチェックしながら意欲的に読んでいるか。
第２時	印象に残った場面を発表し合う。作品のメッセージをふまえた引用部分のテーマを決める。	印象に残った場面の発表を聞きながらその場面を読み直しているか。 引用部分のテーマを考えているか。
第３時	９～10グループに分かれ、グループのテーマを選ばせ、引用部分と伝えるべき思いをまとめ、分担を決める。	テーマにあった引用部分を考えを出し合いながら決めているか。
第４時	グループごとに発表の構成を決め、朗読の練習をする。	テーマが効果的に伝わる発表の構成を話し合えたか。
第５時	朗読発表を聞き合い、感想を交流する。（本時）	自分の思いを朗読発表をとおして伝えようとしたり、発表者へコメントを言ったりできたか。

5 授業改善のポイント（言語活動の充実の観点から）

個人で書いた感想を読み合うという形で交流を行うことが多かったが、今回は「どんな思いを伝えるのか、どの部分を引用するか、どのように思いを伝える朗読をするか」をグループで工夫する言語活動を取り入れ、「学び合い」のある読書の授業を行うことにした。

6 本時の授業

（１）本時のねらい
作品の朗読を聞き合い、感想を伝え合う。

（２）本時の展開

	学　習　内　容	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点（評価）
導入５分	本時の目標を知る。	☆自分のグループのテーマが伝わる朗読、テーマと関連して考えたことが伝わる発表をしてください。	・発表を聞くときのワークシートの記入方法を知る。	・朗読部分を選んだ理由、本の内容に沿った具体的な感想や思いが伝わる
展開４０分	○９グループが発表する。 ・発表を聞く。 ・感想を述べる。 ○発表の振り返りをする。	・発表をする時、発表を聞く時の注意を話す。 ・１グループごとに良かった部分、伝わってきたこと、課題などをコメントさせる。 ・発表について感想を書く。 ・教師が課題やよかった点を話す。	読思いを込めて朗読ををする。 聞伝えようとしている思いを受け止め、自分の感想を持つ。 ・自分の発表の感想、最も良かったグループとその理由を書く。	・聞きやすい朗読(声を届ける工夫) ・構成の工夫（引用と感想などのつなぎ方など） ・朗読の工夫（せりふを分けて読むなど） など考えて朗読発表をしているか。 ・感想をさらに深めているか。
まとめ５分	○全体をとおしてのまとめをする。 ・次時の予告をする。	・教師が全体的な講評をする。 ・引用の効果的な仕方について触れる。	・思いを伝える朗読発表の課題を知る。 ・今後の読書に活かせることを知る。	・テーマに沿って適切な引用箇所を用いる効果を確認しているか。

（３）単元の評価

・作品を読んで自分の考えや感想をもち、引用しながら、伝え合うことができたか。

７　本時の板書計画

いしぶみ

めあて

朗読を通して思いを伝え合う。

思い・考え・テーマ

抽象的

引用

実際起こったこと

具体的

良い引用部分を使う

↓説得力

「引用」から「考え」へ

８　授業を終えて

読み取ったテーマをもとに、感想と引用を交えた「３分間程度の台本」をグループで作る部分かから創意工夫をする生徒も出てきて、話し合いや取り組みもより意欲的なものになっていった。

今後の課題は、教師のコメントや講評が生徒の言語活動のめあてになる、より明確なものになるようにすることだと感じた。また、心に響く朗読ができるグループが多くなるとともに、テーマに関する考えも深まってきたことにより、内容の理解と朗読との関連についても考えさせられた。